

第11回「日本語大賞」

テーマ「おもしろい日本語」

中学生の部 優秀賞 受賞作品

「魔法にかかる」

大阪府
大阪教育大学附属池田中学校
1年 蘭 裕太

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「えらいね〜。えらいね〜。」

物心ついた頃からの記憶。

(そんなにほめなくてもいいのにー。)

僕は恥ずかしくて、くすぐったい気持ちだったことを覚えている。

山口県の祖父母の家に行くとき「えらいね」この言葉をいつもかけられる。

(そう？ そんなに偉い？)

何だか誇らしげになり、自信がつき、頑張ろうという気持ちかわいてくる言葉の魔法にかかる。

年に一度会うか会わないか、あまり行くことができない。自然豊かな祖父母の家は大好きだ。

「よう来たね。」

いつも優しく出迎えてくれる。言葉の節々からあふれ出ている、無条件の優しさに祖父母の懐の広さを感じる。数日間の滞在はあつという間に過ぎる。会えて元気が出たよと言ってもらえるがこちらこそだ。

小さい頃からかかったこの魔法のおかげで何事もあきらめずにチャレンジしてみようという性格になったのかな。

しかし、ある日突然魔法がとけた。

「今日は外が暑いからえらいわねー。」

と祖父母の会話。不思議に思ってた母に尋ねると笑いながら返事が返ってきた。

「えらいは、山口では違う意味なのよ。」

一般的な「偉い」の意味は①偉大②高い地位にあるさま、山口弁の「えらい」の意味は①苦しい②辛い③疲れた、だった。家族みんなで大爆笑。顔から火が出そうなほど恥ずかしかったが、同時に笑いが込み上げてくる。今まで違和感もなく会話をしていた。

「この言葉でどちらの意味でも通じる会話ができる。今日もえらかったね。」勉強してえらいねー。「ほら違和感ないでしょ。」

あれから成長した僕も未だに意味を取り違えそうになる。祖父母も歳を重ね「えらい」を口にする回数が増えた。その度に

「そうだね、きついね。」

「そうだね、疲れたね。」

常に魔法にかからないように変換する。

そういえば、もう一つ面白い言葉がある。夏が旬の言葉。

「また、足かぶられた？。」

(かぶられた。誰に何にかじられた。食われた。)

「えつ。蛇？ 蛇がいるの。」

笑いながら祖母は言う。

「ちがう、ちがう、蚊に刺されたのって聞いたのよ。」

どんな大きなものかと思ったら、小指の爪よりも小さい蚊のことだった。この「かぶる、かぶられる」も方言の一つだ。山口弁は①噛む②刺す、実に面白い日本語だ。

日本全国どこにでも、それぞれの地域には方言と呼ばれるものが存在する。きっと他にもこのような面白い方言があるにちがいない。方言は難しいが親しみがわき、どこか温かみを感じることができると。

大阪にいて街中を歩いたり、電車に乗ったりすると、

「えらいなー。」

この言葉が時々耳に飛び込む。

(あつ疲れているんだな)

と思い、そして僕達に会うことを楽しみにしている祖父母を思い出す。懐かしくなり僕は魔法にかかると。